

| | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---------------|---------------|--------------|--|
| 〔科目名〕 仏教の思想 | | | | 〔単位数〕 4 単位 | | 〔科目区分〕 教養 | |
| 〔担当者〕 松本知己 | | 〔オフィス・アワー〕 時間:授業の前後など。 場所:教室、非常勤講師控室など。 | | | 〔授業の方法〕 講義 | | |
| 〔科目の概要〕 <p>仏教は、紀元前 5 世紀前後のインドで成立した宗教である。朝鮮半島や中国を経て日本に伝来して以来、社会の要請に伴い変容しつつ独自の発展を遂げ、日本人の精神世界に大きな位置を占めてきた。</p> <p>本講義では、我々にとって「内なる他者」である仏教の思想史的理解を目的として、その基本構造と、日本における受容と展開の多様性を学ぶ。</p> <p>前半は、インド仏教の歴史を概観し、思想的展開を解説する。後半は、仏教文献の漢訳など、中国を中心とする漢字文化圏における受容の特質を確認する。その上で、各時代の仏教者の思想と実践を紹介しながら、日本仏教の形成と展開の過程を明らかにする。随時、政治状況、文化事象との関連や、他思想との交渉にも言及する。全体を通じて、日本人にとって仏教とは何であったか、そして何でありうるか、ということを理解し、現代に生きる私たちと、思想・宗教との関係を考察する契機にしたい。</p> | | | | | | | |
| 〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>本科目は、信仰を前提とせずに、仏教を一つの思想、あるいは文化現象（つまり、人がつくったもの）として捉え、その成立と展開を学ぶ。古来より日本文化に溶け込んでいる仏教への理解を深めることは、まずは自身のアイデンティティを確認することにつながる。</p> <p>地域振興はもちろんのこと、経済学や経営学を学ぶという点でも、経済的な活動は人の営みに他ならない。したがって、人間という生き物についての理解は必須である。宗教は、人間の世界観や価値観の基盤をなすと共に、その願望や欲望の受け皿にもなってきたのであり、人間存在の合わせ鏡ともいえる文化現象である。信仰の有無に関わりなく、宗教を知ること、それぞれの社会の基層を知ることができるというよい。私たちは、日本の伝統的な宗教の思想構造を理解し、歴史を知ること、宗教的、思想的背景の異なる人々の思考様式を、より深く理解することができるようになるだろう。</p> | | | | | | | |
| 〔科目の到達目標〕 <ul style="list-style-type: none"> ・仏教という宗教が有する思想の基本的な構造を理解し、正しい日本語で記述できる。 ・インド・中国・日本における仏教の歴史的な推移を理解し、正しい日本語で記述できる。 ・日本仏教の特質を、現代に生きる自分自身との関連で理解し、正しい日本語で記述できる。 | | | | | | | |
| 〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕 | | | | | | | |
| 学部 | | | | 学科 | | | |
| DP1 | DP2 | DP3 | DP4 | DP1 | DP2 | DP3 | |
| ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | | |
| 〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>板書を用いる場合、視認性に配慮し、できるだけ読みやすい大きな文字で記す。</p> | | | | | | | |
| 〔教科書〕 <p>教科書は用いない。毎回資料を配付する。</p> | | | | | | | |
| 〔指定図書〕 <p>宮元啓一『わかる仏教史』(角川ソフィア文庫、2017) 末木文美士『日本仏教史—思想史としてのアプローチ—』(新潮文庫、1996)</p> | | | | | | | |

| | |
|---|---|
| <p>〔参考書〕。</p> <p>平川彰『インド・中国・日本 仏教通史』(新版)(春秋社、2006)</p> <p>養輪頭量編『事典 日本の仏教』(吉川弘文館、2014)</p> | |
| <p>〔前提科目〕</p> <p>なし。</p> | |
| <p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)</p> <p>3分の2以上の出席を前提に、期末のレポート(60%)と、平常点(40%。毎回提出するリアクションペーパーのコメントや、理解度の確認など、授業への参加姿勢を重視する。)によって、総合的に評価する。</p> | |
| <p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕</p> <p>宗教は人間性を全面的に反映した文化現象であるが、その核心をなす思想を知ることが、より広く深い理解をもたらす。講師としては、これを平易かつ正確に伝達する所存である。学生に詳細な予習は求めないが、事前に指定図書や参考書などを参照し、できるかぎり事後の復習を行うよう、心がけてもらいたい。</p> | |
| <p>〔実務経歴〕</p> <p>該当なし。</p> | |
| <p>授業スケジュール</p> | |
| 第1回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 総説</p> <p>内 容: 授業の概要、学習方法、評価基準など。</p> <p>教科書・指定図書</p> |
| 第2回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 宗教類型論から見た仏教</p> <p>内 容: 仏教を含むインドの諸宗教・思想と、世界の諸宗教との比較。</p> <p>教科書・指定図書</p> |
| 第3回 | <p>テーマ(何を学ぶか): インドの宗教・思想①</p> <p>内 容: インド宗教思想史の概観(1)。</p> <p>教科書・指定図書</p> |
| 第4回 | <p>テーマ(何を学ぶか): インドの宗教・思想②</p> <p>内 容: インド宗教思想史の概観(2)。</p> <p>教科書・指定図書</p> |
| 第5回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 仏教の成立(1)</p> <p>内 容: 釈迦(ゴータマ・シッダールタ)の生涯と仏教の成立。</p> <p>教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第I章</p> |
| 第6回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 仏教の成立(2)</p> <p>内 容: 初期仏教の思想構造(仏教における真理とは何か)。</p> <p>教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第I章</p> |
| 第7回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 仏教の成立(3)</p> <p>内 容: 仏教の実践論(仏教者の修行)。</p> <p>教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第II章</p> |
| 第8回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 仏教の成立(4)</p> <p>内 容: 仏教者の集団(教団)と規則(戒律)。</p> <p>教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第II章</p> |
| 第9回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 部派仏教の成立</p> <p>内 容: 釈迦死後の教団分裂から諸部派の形成と展開。</p> <p>教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第III章</p> |

| | |
|------|--|
| 第10回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 部派仏教の思想</p> <p>内 容: 部派仏教のうち、最も有力な説一切有部の存在論を中心に。</p> <p>教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅲ章</p> |
| 第11回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 大乘仏教の起源と成立</p> <p>内 容: 日本仏教の源をなす大乘仏教の成立をめぐる諸問題。</p> <p>教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章1「初期大乘仏教」</p> |
| 第12回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 大乘仏教経典の世界</p> <p>内 容: 紀元前後から大量に作成された大乘経典の具体的な内容。</p> <p>教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章1「初期大乘仏教」 2「中期大乘仏教」</p> |
| 第13回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 空の思想①</p> <p>内 容: 大乘仏教の哲学的基盤をなす「空」の思想の概要。</p> <p>教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章3「大乘仏教の哲学」</p> |
| 第14回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 空の思想②</p> <p>内 容: 『中論』と『般若心経』における「空」の思想。</p> <p>教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章3「大乘仏教の哲学」</p> |
| 第15回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 唯識派の思想①</p> <p>内 容: 「空」の理論化、体系化を目指した唯識派の成立と展開、唯識思想の概要。</p> <p>教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章3「大乘仏教の哲学」</p> |
| 第16回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 唯識派の思想②</p> <p>内 容: 唯識思想の人間観。</p> <p>教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章3「大乘仏教の哲学」</p> |
| 第17回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 浄土教</p> <p>内 容: 阿弥陀仏信仰、中国・日本への広汎な影響。</p> <p>教科書・指定図書</p> |
| 第18回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 密教</p> <p>内 容: 大乘仏教の思想に、インドの呪術を導入して成立した密教の諸相、日本への広汎な影響。</p> <p>教科書・指定図書 宮元啓一『わかる仏教史』第Ⅳ章4「密教と後期大乘仏教」</p> |
| 第19回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 中国仏教の特質①</p> <p>内 容: 高度な精神文化を有する中国における仏教受容の基調、儒教との関係など。</p> <p>教科書・指定図書</p> |
| 第20回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 中国仏教の特質②</p> <p>内 容: 中国人による仏教の主体的な受容の諸相。</p> <p>教科書・指定図書</p> |
| 第21回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 日本仏教の特質</p> <p>内 容: 伝来以降の日本仏教史概観と、日本仏教の傾向など。</p> <p>教科書・指定図書</p> |
| 第22回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 日本の密教</p> <p>内 容: 空海の真言密教(東密)と天台宗の密教(台密)。</p> <p>教科書・指定図書 末木文美士『日本仏教史』第Ⅱ章「密教と円教」</p> |
| 第23回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 鎌倉新仏教の思想①</p> <p>内 容: 法然の浄土教思想(専修念仏の衝撃)。</p> <p>教科書・指定図書 末木文美士『日本仏教史』第Ⅲ章「末法と浄土」</p> |

| | |
|------|--|
| 第24回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 鎌倉新仏教の思想②</p> <p>内 容: 法然の門流、及び親鸞(浄土真宗)の念仏思想。</p> <p>教科書・指定図書 末木文美士『日本仏教史』第Ⅲ章「末法と浄土」</p> |
| 第25回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 鎌倉新仏教の思想③</p> <p>内 容: 日蓮の法華教学(唱題思想)。</p> <p>教科書・指定図書 末木文美士『日本仏教史』第Ⅳ章「鎌倉仏教の諸相」</p> |
| 第26回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 鎌倉新仏教の思想④</p> <p>内 容: 道元、栄西の禅導入と、曹洞宗・臨済宗の展開。</p> <p>教科書・指定図書</p> |
| 第27回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 本覚思想</p> <p>内 容: 日本仏教における現実肯定的傾向、その中心をなす真理観と成仏観、実践論。諸文化への影響など。</p> <p>教科書・指定図書 末木文美士『日本仏教史』FEATURE2「本覚思想」</p> |
| 第28回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 日本仏教の美術</p> <p>内 容: 仏教の普及に伴い多様な展開を示した日本の仏教美術のうち、仏像を中心に概観する。</p> <p>教科書・指定図書</p> |
| 第29回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 近代の知識人と仏教</p> <p>内 容: 田中智学の日蓮主義と石原莞爾、宮沢賢治。</p> <p>教科書・指定図書</p> |
| 第30回 | <p>テーマ(何を学ぶか): 全体のまとめ</p> <p>内 容: 講義の総括、日本思想や文化と仏教。</p> <p>教科書・指定図書</p> |
| 試験 | <p>期末レポートの提出。試験は実施しない。</p> |